

〔榮花物語木綿四手〕こよひの御有さま○小一かならずるにか、まほし御とし二十三四ばかり

におはしませば、さかりにめでたく、ひげなどすこしけはひづかせ給へる○下

〔榮花物語三十四〕いかでかくこのおとゞ○藤原ひげがちにては、もなきこをおぼしたてけん

てなごかき給へるさまよと、おぼしめしけり、

〔古事談二節〕小野宮大臣○藤原愛遊女香爐、其時又大二條殿○藤原愛此女相府香爐被問云、我與

髻愛何乎、汝已通大臣二人二條關白髻

〔今昔物語二十三〕陸奥前司橋則光切殺人語第十五

今昔○中歲三十計ノ男ノ鬢髻ナルガ○中鹿ノ皮ノ沓履タル有リ、

〔宇治拾遺物語十一〕今はむかし、村上ノ御時、古き宮ノ御子にて、左京大夫なる人おはしけり○中

ひげもあかくてながかりけり、こゑははなごゑにてたかくて、物いへば一うちひゞきて聞えけ

る、あゆめば身をふり、かたをふりてぞありきける、色のかめてあをかりければ、あをつねの君と

ぞ殿上の君達はつけてわらひける、

〔檀園隨筆上〕あやしきかたち

平家物語さつのしまのなかづかさいいへすけところいふひげをばそつてもとりをばきらぬをとこな

り、なにもものぞととひ給へば云々、其ころひげをそりたるは、かたちを見しられじと、ことにせる

もの、わざなりけらし、

〔太平記十七〕山門政事附日吉神託事

本間小松ノ陰ヨリ立顯レ○中志ス處ノ矢所ヲ少モ不違、鎧ノ弦走ヨリ、總角付ノ板マデ、裏面五

重ヲ懸ズ射徹シテ、矢サキ三寸計チシホニ染テ出タリケレバ、鬼歟神歟ト見ヘツル熊野人、持ケ

ル鉞ヲ打捨テ、小篠ノ上ニドウト臥ス、其次ニ是モ熊野人歟ト覺ヘテ、先ノ男ニ一カサ倍テ、二王